

Citation: Lancaster T, Stead LF. Mecamylamine (a nicotine antagonist) for smoking cessation. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 1998, Issue 2. Art. No.: CD001009. DOI: 10.1002/14651858. CD001009.

CRG名: Tobacco Addiction

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 25 April 2007

Clib issue No.; N/U: 2009 issue 1, Updated

背景: メカミラミンはニコチン拮抗薬である(すなわち、ニコチンの効果をブロックする)。禁煙のために利用する論拠は、本薬剤がニコチンの報酬効果を阻害し、その結果として喫煙意欲を減退させる可能性があることにある。

目的: 本レビューの目的は、メカミラミンを単独で、あるいはニコチン置換療法と併用して用いた際の禁煙促進効果を決定することにあつた。

検索戦略: Cochrane Tobacco Addiction Group trials register for trials usingmecamylamine(2007年4月)を検索した。

選択基準: 介入後少なくとも6か月追跡した時点での禁煙率を報告したメカミラミンのランダム化比較試験(単独適用あるいはニコチン置換療法との併用条件下での試験)。

データ収集と分析: 被験者のタイプ、メカミラミンやニコチン(置換)療法の薬物投与量や期間、療法の副作用、一連のアウトカム指標、ランダム化の方法、追跡の完全性について、2人が独立してデータを抽出した。主要アウトカム指標は、もともと喫煙していた患者の最低6か月追跡後における(生化学的に確認された)禁煙状態の維持である。追跡中に行方不明になった患者は喫煙を継続しているものとみなされた。利用できたデータは予備的な性格であることから、メタアナリシスは行わず、ナラティブな報告にとどめた。

主な結果: 同一の調査者らによる2つの研究が該当した。48名のボランティアを用いた1つ目の研究では、メカミラミンとニコチンパッチ併用の方が、ニコチンパッチ単独よりも効果的であった(1年後の禁煙率が37.5%対4.2%)。2番目の研究では、禁煙開始に先立つ4週間、以下の4療法のいずれかを受けた。1. ニコチンパッチおよびメカミラミン・カプセル、2. ニコチン単独、3. メカミラミン単独、4. 薬剤投与なし(※プラセボは投与している可能性があると思われる)。全4群は、決められた禁煙期間の後、ニコチンとメカミラミンの併用療法を受けた。これら4群の禁煙率はそれぞれ40%、20%、15%、15%であった。最も高い禁煙率を示した併用療法群の成績は統計的に有意ではなかった。著者らは、カプラン・マイア一法を用いて、メカミラミン投与の統計学的に有意な利益を報告した。

ただし、40%の被験者が多くは便秘のために投与量の減少を必要としたものの、用いた投与量ではメカミラミンは忍容性が高かった。

レビューアの結論: 2つの小規模研究のデータは、ニコチンとメカミラミンの併用療法が、禁煙を促す上でニコチン単独に勝る可能性を示唆する。しかしながら、本療法が臨床的に推奨されるためにはこれらの結果がもっと大規模な研究で確認される必要がある。

(翻訳 岡村和彦・監訳 森 亨; JCOHR)

翻訳公開日: 10年7月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは毎月、改定版が発行されます。Mindsでは最新版

Copyright(c) All rights reserved by Minds, Japan Council for Quality Health Care
の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイムラグが生じている場合もあります。ご利用には、最新版
(英語版)の内容をご確認ください。